

■平成24年度 四国防災トップセミナーを開催

【企画部】

- ・日 時：平成25年1月28日（月）
- ・会 場：四国地方整備局 13階災害対策室
- ・出席者：四国内の市町村長86名を含む、四国東南海・南海地震対策連絡調整会議メンバー、四国東南海・南海地震対策戦略会議メンバー等 約300名

四国防災トップセミナーは、四国内の市町村長が一同に会し、危機管理に関する意見交換等を通じて、災害情報の共有や広域支援、関係機関との相互の連携強化を図ることを目的として、開催してきました。

今年で13回目となる四国防災トップセミナーでは、平成24年8月29日に内閣府から南海トラフの巨大地震に関する被害想定が公表されたことを受け、東日本大震災で地震・津波被害を経験された釜石市の野田市長と、一昨年、紀伊半島豪雨にて大規模土砂災害を経験された十津川村の更谷村長に基調講演をいただき、四国において懸念される『南海トラフ巨大地震』、そして、地球温暖化による異常気象がもたらす『ゲリラ豪雨等による水害・土砂災害』への事前・事後対応など、被災された地域と四国内の市町村長が防災・減災対策について意見交換を行いました。

野田市長には、東日本大震災での「地震・津波」による大災害を体験した首長ならではの貴重なお話を、また、更谷町長には中山間地域の「山津波」による大規模土砂災害について貴重なお話をいただくとともに、参加者である四国の各市町村長からの質問にも丁寧かつ的確なご回答をいただきました。

今後とも地域防災力向上のため、より充実した四国防災トップセミナーとなるよう努めていきます。

■平成24年度「河川愛護月間」の「絵手紙」募集で四国初の最優秀賞の伝達式を開催

【河川部 河川管理課】

国土交通省では、河川愛護の意識が広く国民の間で醸成されることを目的に、毎年7月を河川愛護月間としております。また、その河川愛護月間である7月から9月末まで、「川での思い出、川への思い」をテーマに絵と文章を組み合わせ描いた絵手紙を毎年、全国の小学生・中学生・高校生・一般の方から広く募集しております。

この度、平成24年度の応募作品について、外部有識者を交えた選定審査委員会が国土交通本省で行われ、応募総数1,396点の最優秀賞（国土交通大臣賞）に高松市立太田中学校2年・松井尚寿（まついなおひさ）さんの作品が選ばれました。

この絵手紙の募集・表彰は平成18年度から行われておりますが、最優秀賞は四国では初めての受賞であり、平成25年2月15日金曜日の17時から、伝達式を執り行いました。

当日は伝達者の川崎局長から最優秀賞の表彰状・記念品・副賞を受け取った後、記念撮影を行いました。川崎局長ほか、河川部長を筆頭に河川部幹部が勢揃いしたため、松井さんは緊張した面持ちでしたが、「絵を描くのは好きで、今回の受賞はとても嬉しい。作品を見て、川と生き物を大切に作る気持ちを持ってもらえたら」と感想を頂きました。

作品は、来年度の河川愛護月間の推進ポスターや募集チラシに使われる予定となっております。

■平成24年度「手づくり郷土賞」認定証授与式を開催

【企画部 広域計画課】

「手づくり郷土賞」とは、昭和61年度に創設され、平成24年度で27回目の開催となる国土交通大臣表彰です。地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を、一体の成果として発掘し、「手づくり郷土賞」として表彰するとともに、全国の模範となるよう好事例を広く紹介し、個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層進むことを目指しています。今年度は全国で一般部門36件の応募があり、四国地方整備局管内からは一般部門3件が認定されました。

1) 万代中央ふ頭(水辺のコミュニティスペース)

活動団体：NPO法人アクア・チッタ／徳島県

徳島県徳島市の中心市街地に近い万代中央ふ頭において、まちの賑わい創出などを目的に設立されたNPO法人アクア・チッタと施設管理者の徳島県が協働して、アクアチッタフェスタの開催や、遊休倉庫を新たなコミュニティスペース「第二倉庫アクア・チッタ」として活用し、まちの魅力創出の拠点にしようという取組を行っており、その活動が評価され認定されました。

2) 讃州井筒屋敷を拠点とした歴史ある引田まち並み

活動団体：引田まち並み保存会

香川県東かがわ市引田地域に江戸時代からある屋号「井筒屋」の保存活動をきっかけに発足された引田まち並み保存会が、観光拠点として整備された「讃州井筒屋敷」に常駐し、清掃、ガイド、文化財登録への働きかけなどを行っています。平成14年から毎年3月開催されている「引田ひなまつり」は当会が中心メンバーとなって取り組んでおり、その活動が評価され認定されました。

3) 匠が巧みに未来を拓く～住民主導のまちづくり～

活動団体：たくみの会／梶原町

高知県梶原町において、国道440号の道路改築事業によって町を単なる通過点としないよう住民主導でまちづくりを行うために結成された「たくみの会」が、自然や歴史を活かした魅力あるまちづくりへ主体的に取り組んできました。最近では、まちの魅力創出のため定期的な花植え、清掃活動のほかに、お接待、ボランティアガイドなどのおもてなしに取り組んでおり、その活動が評価され認定されました。

認定証授与式はそれぞれの活動地域で開催され、認定証と記念品盾を局長より手渡されました。

■高知東部自動車道 南国安芸道路(香南かがみIC～香南やすIC間 L=2.9km) が開通 【土佐国道事務所】

土佐国道事務所が平成12年度より整備を進めてきた「高知東部自動車道 南国安芸道路」のうち、「香南かがみIC～香南やすIC」間の2.9kmが暫定2車線で完成し、平成25年2月17日（日）午後3時に開通しました。

当日は、午前9時30分より、土佐国道事務所、高知県、香南市の主催で、香我美中学校において開通式典を執り行いました。式典には地方選出の国会議員、高知県知事及び香南市の関係者や地元関係者など約130名の方々に出席頂きました。

式典では、はじめに川崎四国地方整備局長より「本日の開通により、国道55号の混雑区間を迂回し、救急救命活動等の面での効果や、高知県東部地域の観光や産業活動等の面でも大きな効果を発揮できる。これも関係者の皆様方のご支援、ご協力の賜であり、心から感謝を申し上げる」と式辞があり、その後、来賓祝辞、主催者挨拶、工事経過報告や祝電披露のほか、地元住民から地域の感謝と期待を込めたビデオメッセージや、香我美中学校の代表者からの謝辞等、地域参加型で手作り感を出した式典となりました。

引き続き、今回開通する香南かがみICに移動し、テープカットと、くす玉開披による開通セレモニーが執り行われました。

今回の供用により、代替路すら存在しない高知東部エリアにとっては、文字通り『命の道』となるだけでなく、月見山トンネル高知側出口付近には、大規模災害時に自衛隊等の緊急車両等が高速道路本線に出入りすることができる緊急連絡路の整備も行われ、防災面や救急救命活動の面でも大きな効果を発揮します。

今後、開通効果が最も大きい国道55号と接続する「香南のいちIC」までの間は、平成25年度内の開通を目標にしており、土佐国道事務所としてはこの実現に向け、全力で整備を進めていきます。